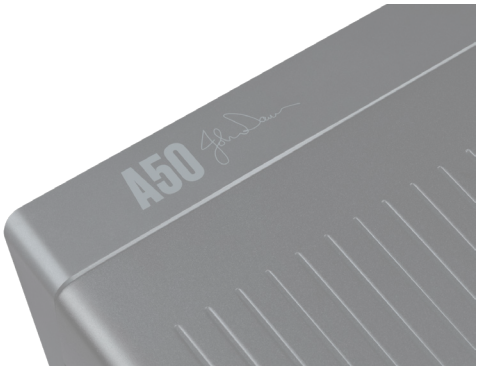
ARCAM

オーナーズマニュアル

A50 Signature





LS_ARCAM_A50Signature_OM_JA_v1_20260923

安全に関する重要な注意事項

1. 本説明書をお読みください。
2. 本説明書を保管しておいてください。
3. 警告をすべて守ってください。
4. 指示に従ってください。
5. 乾いた布を使って清掃してください。
6. 換気口をふさがないでください。メーカーの指示に従って本機を設置してください。
7. 熱源（ラジエーターや電熱器やストーブなど、熱を発生する機器）の近くに設置しないでください。
8. 極性付きまたは接地タイプのプラグの安全機能を損なうな使い方はおやめください。極性付きプラグの片方の端子は、もう一方の端子より幅が広くなっています。接地タイプのプラグには、2個の端子と、接地端子が装着されています。幅広端子や接地端子は、お客様の安全のために装着されています。付属のプラグがコンセントに合わない場合は、電気工事士に相談して、古いコンセントを交換してください。
9. 電源コードの上を歩いたり挟まないようにしてください。特に、プラグ、テーブルタップ、機器のケーブル出口で電源ケーブルを保護してください。
10. メーカーより指定された付属品やアクセサリのみをお使いください。
11. 本装置は最高温度35℃の穏やかな気候での使用を想定して設計されています。
12. メーカーが指定している、または、本器専用に別売されているカート、スタンド、三脚、ブラケット、テーブルと一緒に使用してください。カートを使用する場合、カート/機器を一緒に移動している際に転倒させてけがをしないように注意してください。



13. 稲妻が光ったり、長期間使用しないときは、本器の電源ケーブルを抜いてください。
14. 整備はすべて有資格者に依頼してください。電源ケーブルやプラグが破損した場合、液体をこぼした場合、中に異物が入った場合、雨や湿気で濡れた場合、正常に動作しない場合、落下させた場合など、何らかの損傷が生じた場合には、修理が必要となります。
15. 本機を交流電源から完全に切断するには、電源コードのプラグをコンセントから外す必要があります。
16. 電源ケーブルの電源プラグは、容易に操作できる状態にしておく必要があります。
17. 本機には、メーカーから提供される電源ケーブルや充電ケーブルのみを使用してください。

警告: 火災や感電を防止するため、本機を雨や水で濡らさないでください。

- 本器を水周りで使用しないでください。
- 本機に水滴や飛沫がかからないようにしてください。また、本機の上に、花瓶など液体の入った物を置かないでください。

警告	
感電の危険があります。開かないでください。	
	製品上のこの記号は、筐体内に、絶縁されていない危険な高電圧が存在し、感電の危険があることを意味しています。
	製品上のこの記号は、本ガイドに重要な操作手順やメンテナンス手順が記載されていることを意味しています。

安全上の注意事項の完全リストについては、**ARCAM.co.uk**の製品ページにアクセスし、安全シートをダウンロードしてください。

クラスII機器
本装置はクラスII（二重絶縁）電気機器です。電気的アースへの安全接続を必要としない方法で設計されています。

目次

安全に関する重要な注意事項 2
本器の配置 4
同梱品 4
フロントパネル 5
リアパネル 6
スピーカーの接続 7
XLR端子からソース機器に接続する 8
RCA端子からソース機器に接続する 9
HDMI端子からテレビへの接続 10
Bluetoothの操作 10
リモコン 11
代替コード 11
電源 12
オートスタンバイ 12
入力の選択 12
フォノ入力 12
Service USB 12
ヘッドフォン 12
オーディオメニュー 13
DACフィルター 13
Digital PLL 13
設定メニュー 14
プロセッサーモード 14
トラブルシューティング 15
仕様 17

ARCAM

ARCAMをお買い上げい
ただきありがとうございます

ARCAMの「A」はアンプを表しており、これがわが社の事業の核となっています。

ARCAMは50年にわたり、最先端の音質を提供するHi-Fiおよびホームシネマに特化した製品を製造してきました。

A50 Signatureは、1976年に最初の製品 A&R Cambridge A60を発表して以来、長年にわたってアンプの設計と製造をしてきた当社の最新製品です。

これらのアンプは、今後数十年にわたって高信頼の増幅が行えるように設計されており、優れた音楽性を有しているため、音楽を最大限に楽しむことができます。

万が一、不具合が発生した場合、または技術的サポートが必要な場合は、専用サポートチームまでお問い合わせください:

luxurysupport@harman.com,
+44 1707 668012
+1 888 691 4171

もしくはARCAM製品に関する詳しい情報が必要な場合、当社販売店ネットワークが喜んでお手伝いいたします。詳細についてはARCAMのサイト **ARCAM.co.uk** をご覧ください。

本器の配置

- 本アンプは、直射日光や熱源や湿気を避けて、丈夫で平坦な水平面に設置してください。
- A50 Signatureは、パワーアンプなどの熱源の上に置かないでください。
- A50 Signatureは、通常の動作中、やや暖かい程度の温度で動作するように設計されています。本アンプは、十分な換気が行える場合を除き、本箱やキャビネットなどの密閉空間に設置しないでください。
- 放熱器周辺の空気流が妨げられてアンプなどの物体が過熱する恐れがありますから、本アンプの上に他のコンポーネントなどの物体を置かないでください。
- リモコンの動作が妨げられますから、フロントパネルディスプレイの右側にあるリモコン受光器の前に障害物を置かないでください。

⚠	A50 Signatureは通常の使用時にも多少発熱しますが、大音量で長時間使用すると、アンプの筐体が手で触れなくなるほど高温になることがあります。

オーディオ入力がなく、ユーザー操作が行われない場合、20分以内に本機はスタンバイモードに移行します。本製品には電源管理機能を無効にするオプションがあります。これを行うと、製品の消費電力が増加しますので注意してください。

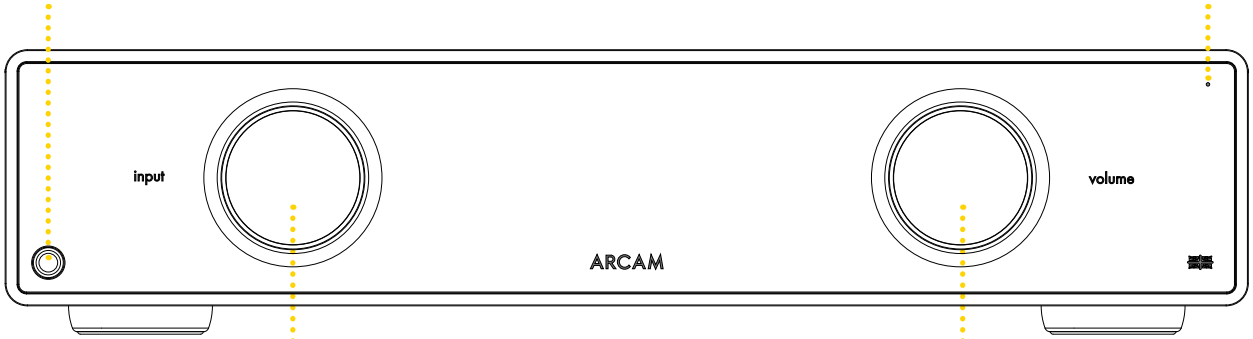
同梱品

- ARCAM A50 Signature プリメインアンプ
- IRリモコン
- リモコン用単4電池2本
- 地域別の電源ケーブル
- 安全性と法令順守に関する冊子
- クイックスタートガイド

フロントパネル

有線ヘッドフォン出力(6.3 mm)
プライベートリスニング用の有線ヘッドフォンを接続します。ヘッドフォンを接続すると、スピーカー出力はミュートされます。

電源LED
白:オン
白(減光):スタンバイ



回す:入力を表示	回す:音量調節
押す:選択	押す:ミュート/ミュート解除、またはスリープ解除
長押し:現在の入力名を変更	長押し:スタンバイ

リアパネル

トリガー入／出力（3.5 mm）
接続先デバイスの電源を自動的にオンオフする12 Vトリガー信号の送受信に使用されます。

デジタル入力
適切なデジタルオーディオケーブルまたはUSB-Cケーブルを使用して、ソース機器のデジタルオーディオ出力をこの入力に接続します。

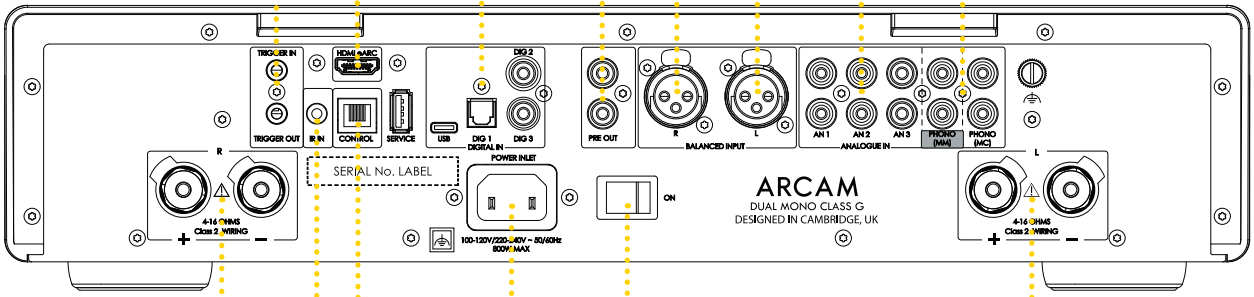
平衡オーディオ入力
この接続の使用方法については、次のページの図を参照してください。

フォノ入力
ターンテーブルに装着されているカートリッジの種類に応じて、ターンテーブルのオーディオ出力を、MM入力またはMC入力に接続します。

HDMI eARC
この接続の使用方法については、次のページの図を参照してください。

プリアンプ出力
パワーアンプまたはアクティブサブウーファー用出力

ラインオーディオ入力
この接続の使用方法については、次のページの図を参照してください。



右スピーカー出力
この接続の使用方法については、次のページの図を参照してください。

電源入力
ここに付属の電源ケーブルを接続します

IR入力（3.5 mm）
視程外に設置したアンプを遠隔操作するための外部赤外線受信機を接続します。

コントロール入力
ARCAM Radiaシリーズのソースの場合のみ使用

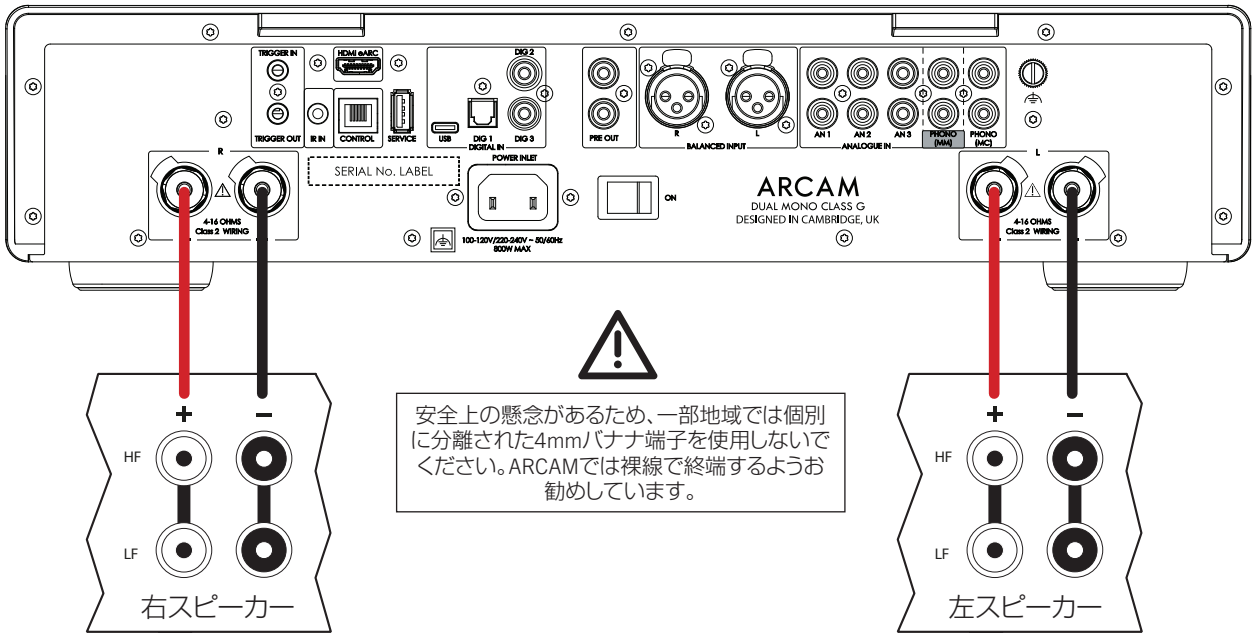
電源スイッチ
アンプのオンとオフを切り替えます

左スピーカー出力
この接続の使用方法については、次のページの図を参照してください。

フォノアース このアースは、基本的な絶縁保護を目的としたものではありません。主に、PHONO MM/MC ターンテーブルに接続した時のハムノイズを除去するために使用されます。

スピーカーの接続

ステップ 1. 本アンプに電源が接続されていないことを確認します。
ステップ 2. スピーカーケーブルを使用して、アンプの赤い右スピーカー出力 (R+) 陽極端子を、右スピーカーの陽極 (+) 端子に接続します。
ステップ 3. アンプの黒い右スピーカー出力 (R-) 陰極端子を、右スピーカーの陰極 (-) 端子に接続します。
ステップ 4. アンプのL+およびL-のラベルの付いた端子を使用して、左スピーカーでも同じ操作を繰り返します。



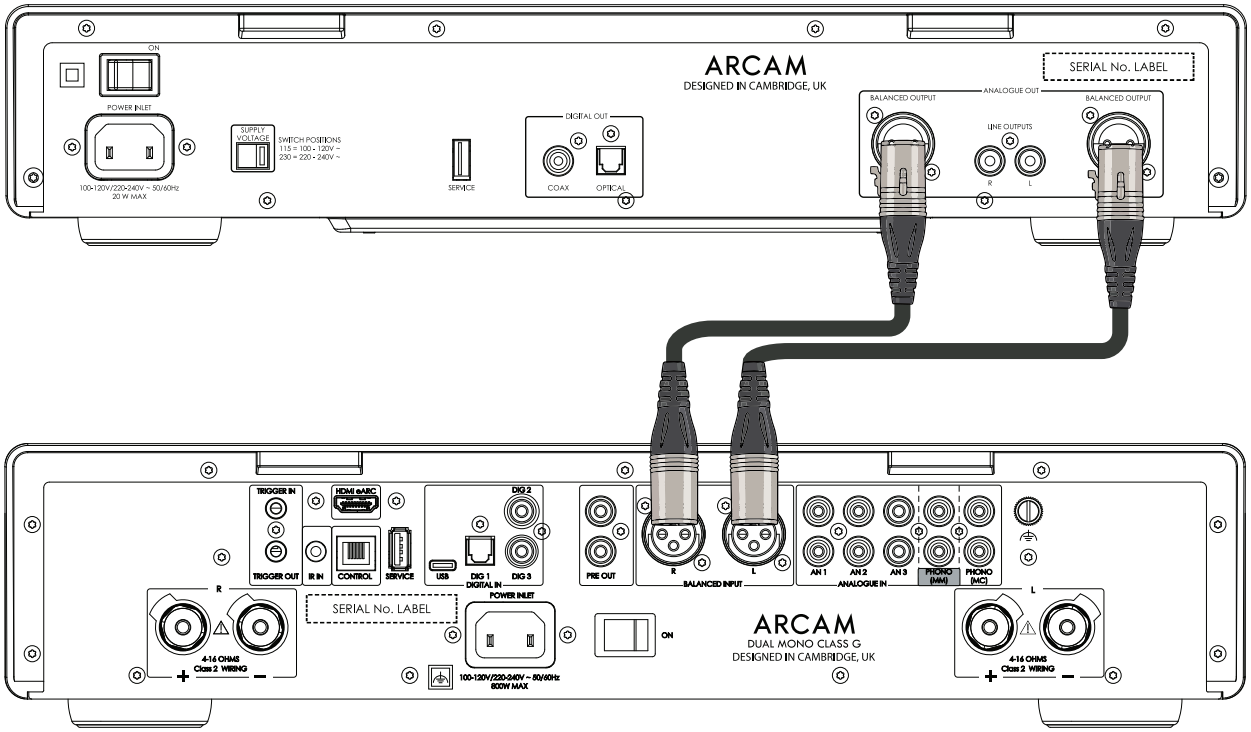
安全上の懸念があるため、一部地域では個別に分離された4mmバナナ端子を使用しないでください。ARCAMでは裸線で終端するようお勧めしています。

役に立つヒント

- すべての接続をよく確認してください。露出したワイヤーやケーブル同士、またはアンプのシャーシに接触していないこと（短絡の原因となります）、さらに正極（+）端子と負極（-）端子が正しく接続されていることを確認します。必ず、アンプとスピーカーの両方の配線を確認してください。
- 接続後：入力信号がない状態でアンプのスイッチを入れ、音量を最小まで下げます。ソース信号を選択し、間違った接続によって大きな音が出たり製品が損傷しないように、適切なリスニングレベルまでゆっくりと音量を上げてください。
- システムの接続方法についてご不明な点がありましたら、ARCAM販売店にご遠慮なくお問い合わせください。

XLR端子からソース機器に接続する

- ステップ1:アンプとソース機器の電源が切ってあることを確認します。
- ステップ2:1本目のXLRアナログインターコネクトケーブルを使用して、ソース機器の平衡アナログ出力の右(R)端子を、A50 Signatureの平衡XLR入力の右(R)端子に接続します。
- ステップ3:2本目のXLRケーブルを使用して、ソース機器の平衡アナログ出力の左(L)端子を、A50 Signatureの平衡XLR入力の左(L)端子に接続します。

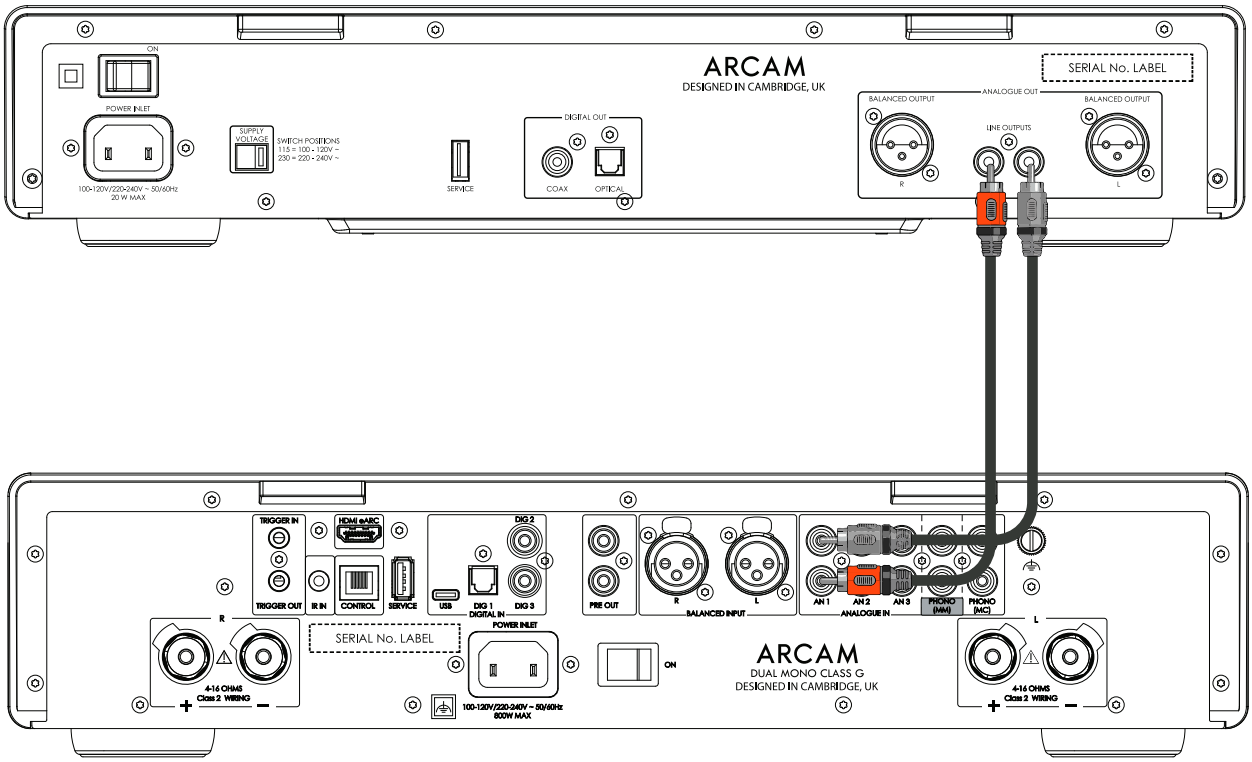


役に立つヒント

- 接続後:入力信号がない状態でアンプのスイッチを入れ、音量を最小まで下げます。CD入力を選択し、CDを再生しながら、適切なリスニングレベルまでゆっくりと音量を上げます。この手順により、接続を誤った場合に、大きな音が出たり製品の損傷を防ぐことができます。
- システムの接続方法についてご不明な点がありましたら、ARCAM販売店にご遠慮なくお問い合わせください。

RCA端子からソース機器に接続する

- ステップ1:アンプとソース機器の電源が切ってあることを確認します。
- ステップ2:アナログインターコネクトケーブルを使用して、CDプレーヤーのアナログ出力の右(R)端子(通常は赤)を、A50 Signatureの赤い右(R)端子接続します。
- ステップ3:CDプレーヤーのアナログ出力の左(L)端子(通常は白)を、A50 Signatureの白い左(L)入力端子に接続します。

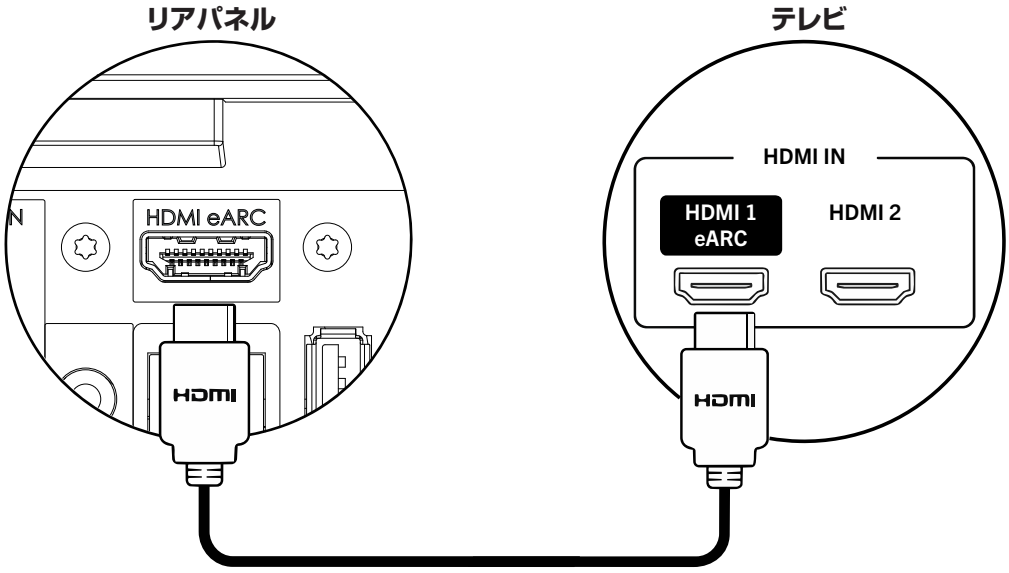


役に立つヒント

- 接続後:入力信号がない状態でアンプのスイッチを入れ、音量を最小まで下げます。CD入力を選択し、CDを再生しながら、適切なリスニングレベルまでゆっくりと音量を上げます。この手順により、接続を誤った場合に、大きな音が出たり製品の損傷を防ぐことができます。
- システムの接続方法についてご不明な点がありましたら、ARCAM販売店にご遠慮なくお問い合わせください。

HDMI端子からテレビへの接続

HDMI対応ケーブルを使用して、**HDMI eARC**コネクターを、テレビの**HDMI**入力のうち、**eARC**または**ARC**と表示された端子に接続します。**eARC**または**ARC**対応テレビに接続すると、本アンプは自動的に**HDMI**入力を有効にし、テレビの音声をA50 Signature経由でスピーカーから出力できるようになります。



Bluetoothの操作

電話またはタブレットを接続:

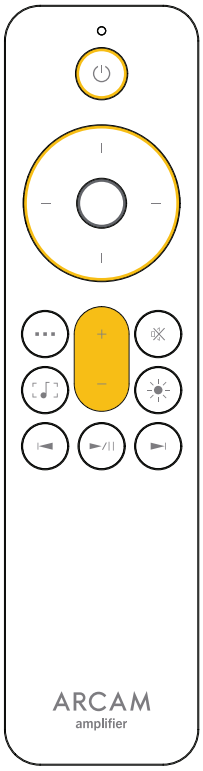
- Bluetoothソースデバイスをペアリングするには、**Bluetooth**入力を選択し、ソースデバイスでBluetooth設定を開き、リストで**A50 ######**を検索します。各製品には固有のIDがあります。
- デフォルトでは、ソースデバイスをBluetoothペアリングする際に、アンプをBluetooth入力に切り替える必要はありません。Bluetoothネットワークをオフにするには、**BT Settings Menu → BT Autoswitch → OFF**に移動し、Bluetooth以外の入力を選択します。
- 本アンプは5台のデバイスとのペアリングを呼び出すことができます。すでに5台が登録されている場合は、一番古いものと置き換えられます。
- Auracast放送を聴くには、**Auracast**入力に移動します。
- ポータブルデバイスにはボリュームスライダーが付いていることが多いため、誤って過大な音量が出力されないように、本アンプには最大音量設定があります。この設定は**BT Settings Menu**ユー内にあります。デフォルトは40です。

ワイヤレスヘッドフォンを接続:

- Bluetoothヘッドフォンをペアリングするには、リモコンの♪を押します。
- **Audio Output**と表示されたら、リモコンの左または右のカーソルボタンを押してオプションを表示します。リストにペアリングされているヘッドフォンが表示されます。初めてヘッドフォンをペアリングする場合は、**Pair New BT Sink**を選択します。ヘッドホンを検出しペアリングするには、ヘッドホンがペアリングモードになっている必要があります。
- リモコンのナビゲーションボタンで、検出デバイスリストからお使いのヘッドホンを見つけて選択します。
- Auracast放送を送信するには、**Audio Output**オプションから**Auracast**を選択します。

注意: Bluetooth出力またはAuracast出力は、Bluetooth入力またはAuracast入力と同時に使用できません。

リモコン



	スタンバイ動作の切り替え
	左/右:入力リスト 中央ボタンを押して選択します メニューナビゲーション
	音量調節
	ミュートのオンまたはオフ
	設定メニュー
	オーディオ出力メニュー
	ディスプレイのオンまたはオフ
	トランスポートキー (再生/一時停止、前のトラック/次のトラックにスキップ)

注意:誤った電池を使用すると、危険な結果が生じる恐れがあります。使い古した電池と新品の電池を混ぜて使用しないでください。異なる電池を混ぜて使用しないでください。見た目は似ていても、電池が異なると電圧が異なることがあります。正しい方向に電池が挿入されていることを確認してください。

1か月以上使用しない場合、機器から電池を外しておいてください。使用済みの電池は、お住まいの国や地方自治体の定めた規則に従って廃棄してください。

代替コード

デフォルトのコードによって2台以上のデバイス(ARCAM　AVRなど)が操作されてしまうという不都合が発生した場合、A50　Signatureとそのリモコンに、デフォルト以外のリモコンコードに設定することができます。希望の動作を行わせるには、A50 Signatureとリモコンの両方でシステムコードを変更する必要があります。

A50 Signatureのシステムコードを変更するには、**System Settings Menu**のシステムコードオプションを参照してください。

リモコンのシステムコードを変更するには、次の手順に従います。

- **POWER**と**OK**キーを3秒間長押しします。リモコンのLEDが常灯になります。
- ナビゲーションキーパッドは、リモコンの代替機能を選択するために使用することができます。
- **UP** – すべてのキーのシステムコードをコード19に設定します。LEDが2回点滅します。
- **LEFT** – すべてのキーのシステムコードをコード16(デフォルト設定)に設定します。LEDが1回点滅します。

電源

- リアパネルの電源スイッチで、アンプの電源のオン/オフを切り替えます。接続が完了したら、アンプの電源を入れます。
- アンプをスタンバイの状態からオンにするには、ボリュームエンコーダーを押しします。
- アンプをスタンバイの状態にするには、ボリュームエンコーダーを長押しします。

オートスタンバイ

本アンプはオーディオの再生やユーザーの操作がない場合、20分以内に自動的にスタンバイに入るように設計されています。これは国際的な電力消費規制を満たすためです。メニューでエコタイマーをオフに変更します。メニューの詳細については、14ページを参照してください。

入力の選択

オーディオ入力は次のいずれかを使用して選択できます。

- フロントパネルのINPUTセレクター。ダイヤルを回して入力に合わせ、押して選択します。
- リモコンの左および右のナビゲーションボタンを使用します。いずれの場合も、ソース名は入力ソケットのラベルに対応します。中央ボタンを押して選択します。

入力は次のとおりです。

- Phono MMおよびPhono MC
- Analogue 1、Analogue 2、Analogue 3、Balanced
- Digital 1、Digital 2、Digital 3、HDMI、USB-C
- BluetoothおよびAuracast

注意:デジタル入力(HDMIとUSB-Cを含む)は、ステレオ(PCM)音声のみをサポートします。マルチチャンネルオーディオやエンコードオーディオは再生できません。

フォノ入力

A50　Signatureには、レコードが再生できるように、ターンテーブルのMM(ムービングマグネット)またはMC(ムービングコイル)カートリッジに対応したフォノ入力端子が搭載されています。ターンテーブルに装着されているカートリッジの種類を確認し、該当する入力にターンテーブルを接続してください。

> この入力には、**絶対に**ターンテーブル以外の機器を接続しないでください。ターンテーブル以外の入力ソースを接続すると、アンプとスピーカーの両方に重大な損傷が発生します。その場合保証は適用されません。

どちらの入力にも、A50　Signature内蔵のフォノ入力によるレコード再生の性能を微調整する　設定オプションがあります。

- MC負荷インピーダンスを調整するには:次の項目に移動します:
  Audio Menu → MC Load → 470 ohm/220 ohm/100 ohm/70 ohm。
- MM負荷キャパシタンスを調整するには:次の項目に移動します:
  Audio Menu → MM Load → 50pF/150pF/270pF

Service USB

本アンプのService USBソケット(Type A)は、ソフトウェアのアップデートにのみ使用されます。音声入力ではありません。

ヘッドフォン

ヘッドフォンソケット (PHONES) には、6.3 mmステレオジャックの付いたヘッドフォンを接続できます。初期設定では、ヘッドフォンを差し込むとプリアンプ出力とスピーカーがミュートされます。
注意:セットアップメニューの**Headphone Override**機能を使用すると、ヘッドフォンを差し込んでもプリアンプ出力とスピーカーはミュートされません。

オーディオメニュー

リモコンの♪を押します。
リモコンのナビゲーションボタンを使用して、希望のオプションを見つけて変更します。選択ボタンを押して、新しい設定を保存します。

メニューオプション	説明	デフォルト
Audio Output (オーディオ出力)	使用したい出力を選択します。「**Default (デフォルト)**(= スピーカー)、**Auracast**、ペアリング済みのBT Sinkデバイス、**Pair New BT Sink**(Bluetoothオーディオ出力に初めて接続する場合)から選択できます。 **Bluetooth**または**Auracast**入力が選択されている場合、このオプションは表示されません。	Default (デフォルト)
Balance (バランス)	オーディオを左または右のスピーカーのいずれかに重み付けするかどうかを選択します。	0
DAC Filter (DACフィルター)	DACで使用したいデジタルフィルターの中から選択します。	Apodizing
Digital PLL	デジタルオーディオクロック同期の許容範囲を変更します。 左または右のカーソルキーを押して、変更したい入力に移動します。 選択キーを押して、**Normal (通常)**と**Wide (ワイド)**を切り替えます。	Normal (通常)
MC Load	MC(ムービングコイル)入力のインピーダンスを調整します。	470 ohm
MM Load	MM(ムービングマグネット)入力の静電容量を調整します。	50pF

DACフィルター

A50 Signatureには、デジタルからアナログへの変換処理で使用されるデジタルフィルターを選択するオプションがあります。出力で不要な歪みを最小限に抑えるためにデジタルフィルターが必要ですが、どのデジタルフィルターも完璧ではありません。各パラメータの間で妥協する必要があります。

- 周波数応答 - 可聴周波数全体にわたるオーディオレベルです。理想的には、20Hzから20kHzの間であまり変化しないことが望ましいとされます。
- フェーズ - 異なる可聴周波数を再生する際に生じる時間遅延です。理想的には、できる限り少ない(リニアフェイズである)ことが望ましいとされます。
- リンギング - オーディオの前(プレ)または後(ポスト)に発生する追加のオーディオ アーティファクトです。理想的には、できる限り小さなレベルで、できる限り短時間継続することが望ましいとされます。

A50 Signatureでは次のフィルターを選択できます。

Apodizing - 周波数応答、位相、リンギングの間の妥協点です。最高周波数の出力レベルがわずかに低下します。プレ/ポストリンギングは等しく、レベルが低下します。
Minimum Phase Fast - 20 kHz以下の出力レベルを維持します。プレリンギングは発生しませんが、ポストリンギングが最も多く、高域では位相応答が変化します。
Minimum Phase Slow - プレリンギングが発生せず、ポストリンギングも低減されますが、超高域では出力レベルが測定可能な程度に低下し、位相シフトが発生する場合があります。
Linear Phase Fast - 高域での位相シフトが最小限に抑えられ、20 kHz以下の出力レベルが維持されますが、プレリンギングとポストリンギングが大きくなり、同程度のレベルで発生します。
Linear Phase Slow - プレリンギングとポストリンギングが同程度に、ごく短時間発生し、そのレベルも低く、位相シフトは発生しませんが、超高域で出力レベルが測定可能な程度に低下します。

Digital PLL

Normalは、ほぼすべてのソースに適しています。ノイズが出たり信号が妨害される場合(テレビやセットトップボックスなど、ジッターの大きいソースで発生する可能性が高い)にのみ、**WIDE**を選択してください。

設定メニュー

リモコンの⋯を押します。
リモコンのナビゲーションボタンを使用して、希望のオプションを見つけて変更します。選択ボタンを押して、新しい設定を保存します。

メニュー	メニューオプション	説明	デフォルト
System Settings Menu (システム設定メニュー)	Streamer Input (ストリーマー入力)	ARCAM Radiaストリーマーが接続されている入力を選択します。	None (なし)
	Halo Brightness (ヘイローの明るさ)	ダイヤルイルミネーションの明るさを選択します。	Full (フル)
	Output Override (出力オーバーライド)	有線ヘッドフォンを接続したときに、スピーカーをオフにするか、オンのままにするかを選択します。 **Off**(スピーカーをミュート)／**On**(スピーカーのミュートを解除)。	Off (オフ)
	HDMI Autoswitch (HDMIの自動切り替え)	オーディオの起動時に、接続先のテレビから自動的にアンプの電源を入れて、HDMI入力を選択するように設定することができます。	On (オン)
	Hide/Show Inputs (入力の非表示/表示) Analogue 1 (アナログ1) < ・Show (表示) >	入力リストに、未使用の入力を表示しないオプションです。 左または右のカーソルキーを押して、変更したい入力に移動します。 選択キーを押して、**Show** (**表示**)と**Hide** (**非表示**)を切り替えます。	Off (オフ)
	Processor Mode (プロセッサーモード)	固定音量のアナログ入力を選択します。	Off (オフ)
	Processor Volume (プロセッサー音量)	上で設定した**Processor Mode**入力の固定音量を設定します。	25
	Pre-Amp Mode (プリアンプモード)	内部パワーアンプを無効にします。	Off (オフ)
	Eco Timer (エコタイマー)	自動スタンバイタイマーを有効または無効にします。**On (オン)** = 出力が出ていなかったり操作が行われない状態が20分間続くと、スタンバイ状態になります。	On (オン)
	Eco Timer (エコタイマー)	アンプのリモートコマンドがご家庭内の別のデバイスと競合する場合は、IRコードセットを変更してください。この設定は、別途、リモコンでも変更する必要があります。	16
	Software Version (ソフトウェアバージョン)	本アンプのソフトウェアバージョンを表示します。	
	Reset to Factory Defaults (工場出荷時設定にリセット)	アンプを工場出荷時のデフォルトにリセットします。Selectを押してリセットを開始します。	
	USB Software Update (USB ソフトウェアアップデート)	USBによるアンプソフトウェアのアップデートを開始します。Selectを押してUSBを開始します。アップデートを実行するには、**SERVICE USB**ソケットに、アンプソフトウェアが保存されたUSBメモリーを挿入しておく必要があります。	
BT Settings Menu (Bluetooth設定メニュー)	BT Autoswitch (Bluetooth自動切り替え)	接続した機器から音楽が再生されたときに、Bluetooth入力の自動切り替えを有効または無効にします。	On (オン)
	BT Max Volume (BT最大音量)	Bluetooth入力の最大音量を設定します。	40
	Clear Bluetooth Device List (Bluetoothデバイスリストを消去する)	アンプからペアリングされたデバイスのメモリーを消去します。Selectを押してペアリングを削除します。	

プロセッサーモード

Processor Modeでは、1つの入力で音量が固定されます。どのアナログ入力にもアサインできます(Phonoを除く)。このモードでは、ホームシネマと2チャンネルリスニングのコンビネーション環境で、本機をAVアンプまたはAVプロセッサーと一緒に使用することができます。**Processor Volume**設定を使用して、ソースアンプまたはプロセッサーに接続されている他のスピーカーに合わせて音量を調整します。

トラブルシューティング

問題	以下を確認
Bluetoothヘッドホンから音が出ない	アンプが接続される前に、ヘッドホンが電話やタブレットなど他のデバイスに接続されていないか確認してください。 ヘッドホンから取り外すと自動的にミュートされる省電力機能（ヘッド検出）が付いている場合、ミュートを解除して、再装着時にサウンドを復元する必要があります。
音が出ない	アンプが電源に正しく接続され、電源スイッチが入っていますか? スピーカーケーブルは両端とも正しく接続されていますか? 本オーナーズマニュアルの7ページ「スピーカーの接続」を参照してください。 オーディオソースが正しく接続され、正しい入力が選択されていますか? アンプがミュートされていませんか? 設定メニューで**Pre-Amp Mode**が有効になっていますか? 本アンプにスピーカーを直接接続する場合、Pre-Amp Modeを、デフォルト設定にしてください。初期設定は**Off**です。 アンプが保護モード（下に説明があります）になっていませんか?
不意に音が出なくなった	アンプが保護モードになっている可能性があります。フロントパネルに故障の種類が表示されます。 • **FAULT DC OFFSET:** アンプが過負荷を検出しました。電源をオフにして、再度オンにした後、音量を下げてください。 • **FAULT SHORT (CIRCUIT):** アンプが、スピーカーの短絡を検出しています。スピーカーケーブルをすべて点検して、互いに接触していないか確認してください。この故障は、スピーカーの接続に、末端未処理ケーブルを使用した場合によく起こります。 • **FAULT OVER TEMP:** 本器内部の温度が危険なレベルまで達しています。アンプの温度が下がるまで待ちます。 スピーカーへの出力電力が停止するように、アンプの電源が自動的に切れます。アンプを引き続き使用するには、不具合を修復し、リアパネルの電源スイッチでアンプの電源を一旦オフにしてから、再度オンにする必要があります。
アンプがリモコンに反応しません	ボタンを押すとリモコン上部のライトが点滅しますか? 点滅しない場合は、リモコンの電池を交換してください。 リモコンとアンプの間に障害物がなく、リモコンがアンプの窓を向いていますか?
フロントパネルディスプレイに何も表示されない	ディスプレイが「Off」で暗くなっていませんか? リモコンの☼を押すとディスプレイの明るさが切り変わります。 アンプが電源に正しく接続され、電源スイッチが入っていますか? アンプがスタンバイ状態になっていませんか?
アナログ入力でハムが出る	すべてのケーブルの接触が良好であることを確認してください。 入力端子からケーブルを一旦抜いてから、もう一度奥までしっかりと差し込んでください（これを実行する前に電源を切ってください）。 ケーブルを外すとハム音が止まる場合は、別のケーブルに交換してください。 特定のソースデバイスが接続されたときにのみハム音が発生する場合は、デバイスのサプライヤーまたはメーカーにお問い合わせください。デバイスに問題がある可能性があります。

このページは意図的に空白になっています

仕様

連続出力(0.5% THD)、2チャンネル駆動時		
8Ω、20Hz～20kHz — 出力	150W	
4Ω、1kHz — 出力	220W	
高調波歪、出力80%、8Ω、1kHzにて	0.002%*	
アナログ入力		
入力数	3(RCAペア)、1(XLRペア)	
フォノ入力	MMとMC	
周波数応答	20Hz～20kHz ± 0.2dB	
SN比(A重み付け、50W、入力1Vにて)	106dB	
デジタル入力		
入力数	HDMI eARC/ARC×1、同軸(RCA)×2、オプティカル(Toslink)×1、USB-C×1	
サポートされるサンプリングレート(kHz)	USB-Cのみ	384、352.8、192、176.4、96、88.2、48、44.1
	その他のデジタル入力	192、176.4、96、88.2、48、44.1
ビット深度(ビット)	32、24、16	
周波数応答 (フィルタ1)	20Hz～20kHz ± 0.2dB*	
SN比(A重み付け、50W、0dBFSにて)	110dB*	
ヘッドフォン出力		
32Ω/300Ωの最大出力レベル(RMS)	2.5V/5V	
負荷範囲	16Ω～2kΩ	
ワイヤレス仕様		
Bluetoothバージョン	5.4、A2DP Sink/Source、AVRCP、BLE、SBC、AAC、aptX、aptX HD、aptX Lossless、LE Audio、Auracast	
Bluetoothトランスミッターの周波数と電力	2,400 MHz ～ 2,483.5 MHz: <20dBm	
全般		
主電圧	100Vまたは110～120Vまたは220～240V、50～60Hz	
消費電力(最大)	800W*	
節電スタンバイ時:(スタンバイ)	<0.5W	
寸法 W×D(スピーカー端子含む)×H(脚含む)	431 × 344 × 99 mm	
本体重量	11 kg	
重量(梱包時)	15.2 kg	
同梱アクセサリ	主電源ケーブル	
	リモコン、単4形電池 x 2	
	クイックスタートガイド	
	安全に関する重要な注意事項	

ARCAM

謝辞

HDMI、HDMI High-Definition Multimedia Interface、HDMI Trade dress、
HDMIロゴは、HDMI Licensing Administrator, Inc.の商標または登録商標です。

Bluetooth®のワードマークとロゴは、Bluetooth SIG, Inc.が所有する登録商標です。

Auracast™のワードマークとロゴは、Bluetooth SIG, Inc.が所有する商標です。

HARMAN International Industries, Incorporatedでは、ライセンスを受けた上でかかるマークを使用しています。その他の商標および商標名は、それぞれの所有者のものです。

www.arcam.co.uk

ARCAMは、米国および諸外国で登録済のHARMAN International Industries, Incorporatedの商標です。

© 2026 HARMAN International Industries, Incorporated.無断転載を禁じます。

機能、仕様、外観は予告なく変更されることがあります。

HARMAN International, Incorporated
8500 Balboa Boulevard, Northridge, CA 91329 USA
Danzigerkade 16G 1013 AP Amsterdam, Netherlands
Ground Floor, Westside 2, London Road, Apsley, Hemel Hempstead, Hertfordshire, HP3 9TD, United Kingdom

LS_ARCAM_A50Signature_OM_JA_v1_20260923